

2019年5月25日発行

地域と協同の 研究センターNEWS

177号

「ねこの手集会」10周年を終えて

濱 佳子

昨年、おたがいさまの全国集会を高山市（岐阜県）で開催しました。それと一緒に「おたがいさまひだ」の10周年もしたいと思っていましたが、全国集会が思っていたほど簡単には行かなくなり、今年11回目の「ねこの手集会（おたがいさまひだ総会）」での開催となりました。



このところ、みんな本当に忙しく、顔を合わせての打ち合わせも中々出来ずどうなるかと思いましたが、「LINE（ライン）」を活用しているおかげでなんとか同じ認識で当日の朝を迎えることができました。しかし、発表のパワーポイント画像は担当者以外目を通す時間もなく、当日初めて見ました。

「ああっ！こんな事やったなあ…」と忘れていた場面が次々流れ出てくるので、薄暗〜い中、周りの事も忘れてつい見入ってしまっていました。「これは！二人からの私へのサプライズやん！」と思われ、なんか、ほんわかした気持ちになりました。

そして10年前の前向きな気持ちや優しい気持ちがよみがえってきました。そうか！初心にかえれってことか！

当初、何も解かってなくただ早く始めたいばかりのところへ、研究センターの橋本吉広さんに、高山市で研修会を開いてもらい、福祉の事や世の中の流れなどを教えてもらいました。

つい先日、「人口減少社会と協同組合」第2回公開セミナー（4月6日・名古屋）が開催され、そこで、コープぎふのくらしの活動部・飛騨圏域担当職員の松原滋さんが報告をされました。内容は、昨年度からの飛騨市とコープぎふの「み～んなよらまいか！」連携のとりくみについてです。研究センター専務理事の向井忍さんがその下見に見えました。コーヒーを出しつつ、私もお話の輪に入れてもらいました。「おたがいさまひだ」はサロンを10年ほど経験しているので、宮川町・河合町で3ヶ所のサロンのお手伝いもさせてもらっています。セミナー当日にも、飛び入りで参加させてもらいました。研究センターのセミナーのあの雰囲気、久しぶりで懐かしかったです。活気があっていいですね。飛騨の山奥に居ると、「こんな事していいんやろか」とか思いながら毎日が済んでいきます。向井さんが宮川まで下見に来て下さって、関心をもって評価もしていただいて、なんかとても元気ができました。

私の子どもより若い飛騨市の職員さんと一緒になって、私の親ほど年の離れた元気なかが住んでらっしゃる山奥へ、笑顔を振りまきに行ってきます。これからも、いろいろ参考になること教えてください。よろしくお願いします。

（はま・よしこ、おたがいさまひだ）

CONTENTS

| | | | | |
|---|--------------------------------------------------|--|---|----------------------------------------------------|
| 1 | 「ねこの手集会」10周年を終えて | | 5 | 【書評】共に生きる場を拓く／小木曾洋司・赤石憲昭編（現代社会研究会） |
| | 濱 佳子 | | 6 | 情報クラブ |
| 2 | 第2回公開セミナー「人口減少社会にどのように臨むかー協同組合とコミュニティの結びつきを力に」報告 | | 7 | 研究センター5月活動 |
| 4 | “大学生と考える協同組合講座” 名市大寄付講義 | | 8 | 【企画案内】愛知県立大学地域連携事業／連続セミナー「多文化共生を巡る地域連携と社会課題への取り組み」 |

「人口減少社会と協同組合」第 2 回公開セミナー
人口減少社会にどのように臨むか —協同組合とコミュニティの結びつきを力に
文責：大島三津夫（事務局）

4 月 6 日（土）に「人口減少社会と協同組合」第 2 回公開セミナーを 68 人の参加で開催しました。今回は、こうち生活協同組合 理事長 西岡雅行氏の基調講演の概要をご紹介します。

地域に密着した商品事業と組合員活動

こうち生協の取り組みについて

こうち生活協同組合 理事長 西岡 雅行氏

1. こうち生協の紹介

こうち生協は、1985 年に設立しました。設立時の基本理念は「健康と子ども達の未来のために」としていません。食品は、コープしこくで扱



西岡 雅行氏

い、独自のカタログ「こうち版リブレ」を月一回発行しています。また、地域一番のスーパー「サニーマート」の子会社や関連会社と提携しています。

毎年、職員・パートを入れて 600 人位の方に、12 月くらいに、振り返りと次年度へ向けての提案を書いてもらっています。2019 年度方針の基本的な考え方として「くる人には楽しみをかえる時には喜びを」を加えました。気がついたことを書いていただいて、次の年の方針化にしています。

勸奨退職も含めて一切解雇はしませんと宣言してやってきました。今は、平等に条件を与えたいと、本人に意思があれば正規職員に登用することをしています。専任職員は地域限定職員です。毎年 10 人くらい登用しています。

2. 超高齢化県 市町村、地域でどう生きる

限界集落という言葉があります。考え方によっては、この不便さが SDG s の最先端に行くことかもしれないと考えています。便利になればなるほど、社会に負荷をかけるかもしれません。不便さが社会、地球環境に負荷をかけないのではないかと思います。以前誤認逮捕された厚生労働省の村木厚子さんは、「3 方よしに 2 つ加えなさい」と言っておられます。相手よし、

自分よし、地域よし、プラス地球よし、未来よしです。これが SDG s です。持続可能な開発目標なんて難しいことを言わずに、五方よしと言えればいいということです。

高知県の現状は、人口 70 万人ちょっとで毎年 8 千人ほど減っています。2030 年には 61 万人になると言われています。四国は、イオングループとローカルのスーパーや生協との競合になっています。単独では消滅せざるを得ない状況です。高知の量販店が集まり共同仕入れが出来ないかと考えたりもしています。（令和に入り人口 70 万人を切りました）

3. 過疎町村での特徴（元気）を紹介

「こうち版リブレ」を月 1 回発行し、年 2 回ギフトの案内を発行しています。地域にいろいろないいものがあり、支所産直として宅配事業の事業所で行っています。各行政の市長とは、年一回は懇談します。全市町村をまわり、観光を担当している方にも来ていただいて、特産品を紹介してもらいました。生協の基準に合えばカタログで紹介します。その次の年は、社協を訪問しようと考え、地域の状況を知るようにしました。10 年位になります。「こうち版リブレ」で「子どものころ食べた、懐かしい」と喜んでいただくような商品もあります。地域のメーカーさんにもお役立ちができていないかと思えます。320 社くらいの商品を紹介しています。商品検査室もあり、衛生管理基準がどうかということと、添加物も調べさせてもらっています。基準に合わないこともあり、合うように改善してもらいます。しかし「こうち版リブレ」は赤字です。専任はつけず、夕食宅配を担当している職員が行っています。夕食宅配と合わせればプラスマイナスゼロでいいということで行っています。

上勝町は、徳島県で一山超えれば高知県です。町長とも懇意にしています。ゴミゼロの町です。焼却場がありません。有機物は堆肥化するし、

堆肥にできないものは、空家を借りて交換所を設置し、リサイクルしています。環境に一番やさしい町だと思います。最大の特徴は「葉っぱビジネス」です。「いろどり」という株式会社を設立して、もみじとか脇ものツマ商材を全国に発送しています。320 種類くらいの葉っぱを山で栽培したり、採ってきたりして、全国に発送しています。去年、内閣府 SDGs 未来都市に上勝町が選定されたということです。

馬路村は、人口 823 人で、ポン酢で有名です。20 年くらい前に、コープこうべがポン酢の目隠しの試飲会をやり、この馬路村のポン酢が一番おいしくて、コープこうべが取り扱い、全国に広まりました。もともと国有林があって、屋久杉に次いで有名な杉の産地です。杉を生かす加工場があり、20 数年前、杉やヒノキでトレーをつくりました。ヒノキは防腐剤にもなります。今後この加工場は注目されるのではないかと思います。

檜原町は山間の町です。環境モデル都市宣言をしていて、2050 年までに電気の自給率 100% を目指す宣言をしています。30 年以上前から水力発電、風力発電、最近は木質バイオマス発電に取り組んでいます。18 万キロワットの風力発電をつくる計画があります。これを行えば自給率 100% は達成できます。発想の転換がすごいのは、山の中ですから、道路も車やとすれ違う道です。普通はバイパスをつくりませんが、バイパスをつくれれば車が通らなくなって寂れてしまいます。檜原町では、両脇の家の方に後ろへ下がってもらい、元ある道を拡幅します。前の町長も自分が環境の町にしたいとレールを敷いてやめました。今度の町長も、後は若い者に引き継ぐそうです。

旧土佐山村は、現在は高知市に編入されています。人口は 937 人で、こうち生協との関係では一番古い所です。地域との関係は、この土佐山村から始まりました。有機の村にしたいと相談に来られ、村が開発公社をつかって、無農薬、減農薬の野菜をつくるので、ぜひ生協と一緒にやって欲しいと言われました。産直野菜ボックスからスタートしました。高知で初めて店舗に産直コーナーをつくりました。土佐山の産直コーナーは、現在も運営しています。店舗で出る残菜、魚のアラ、土佐山の牛の糞を堆肥化しま

しています。生ごみのリサイクルです。現在は、ほぼ店から出る廃棄物は堆肥化しています。今年、土佐山が中心になって、「こうち食と農を守る会」をつくりました。生協も構成団体です。

高知市に合併し、小中廃校の危機の中、小中一貫の「土佐山学舎」をつかって特徴のある学校にしました。その特徴は、低学年から英語教育に力を入れていることです。2018 年、中学生 5 人が全員英検 2 級に合格したということです。発想の転換をすれば地域は活性化します。子どもの声が地域から消えると地域はさびれると思います。子どもの声が山の中に響いています。

土佐町は、人口 4 千人くらいなので、高知では山の中でも大きい町です。スーパーがあって、隣の大豊町の農協が撤退したため、土佐町と大豊町で運営しています。要望にはすべて応えるというスタンスで運営しています。惣菜でこういう味にして欲しいとか、お店からの配達もします。高知では「皿鉢料理」というのがあり、これを県外に出ている方に送りたいという要望が出て、今年 500 枚全国に発送したそうです。こうち生協に講演にも来ていただいています。

4. 限界集落？元気な地域

限界集落の地域は、元気がないということではありません。

小学校廃校と同時に消滅する地域、逆に元気になった地域があります。小学校廃校になると、子どもの声が消え、地域の火が消えます。元気になった地域の最大の特徴は地域のネットワークが出来ていることです。元気な人が何人か見守りをしています。県外に転出している子どもさんの情報もつかんで、親御さんの報告もしているとのこと。限界集落になればなるほどみんな何か考えます。元気なところはたくさんありますが、逆に手をつけていないところもあります。

今までは「生協が」と言ってきましたが、10 年くらい前からこれからは「生協も」と言っています。一緒にと考えると、何か開けるのではないかと思います。「生協が」なんとかしようではなくて、「生協も」地域の方々や行政と一緒に何かお役立ちができるのではないかとというスタンスに立てば、そこからものごとが広がるのではないかと思います。

“大学生と考える協同組合講座” 名市大寄付講義

今年も元気に始めました！（第二期 3 年目）



少子高齢化社会に向かう中で、セーフティネットとしての人と人のつながり、
コミュニティの復権をどのように作り上げていくのか！

2014 年度から始まった名古屋市立大学における「現代社会と人と地域のつながり」をテーマとした寄付講義は、3 年を区切りとして今年度は第二期 3 年目を迎えました。今年は 92 名（1 年：55 名、2 年：22 名、3 年：9 名、4 年：6 名）の学生が受講します。講義は前期（4 月～7 月）毎週木曜日の 2 限目、15 回に渡って行われます。講師には大学生協、コープあいち、南医療生協、あいちあんきネット、消費者被害ネットワーク東海、名北福祉会、ひまわり農協、ワーカーズコープ、わいわい子ども食堂プロジェクト、ポトスの家、協働・夢プロジェクトから実践家の熱のこもった授業が展開されます。

今年はこれまで 5 年間の蓄積を生かした、いわば集大成の年となりますが、講義の目的である人と地域のつながりの大切さに気付かせ、豊かな生き方や成長につなげるという基本的な方向性の変更はありませんが、講師陣それぞれがこれまでの講義や課題レポートから得た学生の反応や、個々の組織運営の進展を踏まえ、より工夫された講義を展開されることが期待されます。そこで今年度は各講師に講義を終えた感想と伝えたかった思いをまとめていただき、小冊子を作成する予定にしています。

それでは、今までに 5 回の講義を終えていますので、それぞれの講義の要点と、学生の反応をご紹介します。

◆第 1 回 講義目的の開示と事業形態の説明

向井清史 先生

講義全体のガイダンスをしたあと、これからの講義を聞く上での基礎的な事項である①国家・市場・社会的なものとの関係—前近代から近代への遷移—、②福祉国家とコミュニティの解体、③トリクル・ダウンを支える 3 大要素、④グローバリゼーションと社会の分断、という 4 つのカテゴリーを説明し、最後に理解の難しい「法人の分類」について解説を加えました。

【学生の感想】 将来人助けをしていると実感して働ける職業につきたい。今の社会問題と関わるひとのことを知りたい。（理学 1 年）

◆第 2 回 自分たちが作る大学生協、協同組合
大学生協

名市大生協を例に協同組合を説明し、学生生活に潜むリスクに対して学生総合共済がどの様に役立っているのかを紹介し、事業の意義を説明しました。

【学生の感想】 生協にもっと興味をもち多くの人に知ってもらいたい。（看護 1 年）／運営に参加し声を上げることが大切。（人社 1 年）

◆第 3 回 安心の地域づくりと協同組合
南医療生協

「安心の地域づくり」の実践を紹介。自治体・生協・農協が連携した「ちゃっと」、おたがいさまの家「いっぷく」を拠点とした生活サポーターの活動など、地域で助け合って長生きを喜べるまちづくりの大切さを伝えました。

【学生の感想】 私たちのできる活動をもっと知りたい。（人社 1 年）／こういった医療の形もこれからは大切になってくる。（医学 1 年）

◆第 4 回 買い物弱者問題と人のつながり
コープあいち

高齢化、小世帯化、地域の衰退などによる生活弱者、特に買い物難民に対する生協の役割と事業展開を紹介。自助や公助の限界を互助で補うことの大切さを強調。

【学生の感想】 高齢化が進む中の社会に役立つサービスです。（理学 1 年）／民間の業者にはできず、生協にできるのはなぜか。（人社 1 年）／地域の人と触れ合える仕事に興味を持った。（人社 1 年）

◆第 5 回 老後を豊かにする地域と人のつながり
あいちあんきネット

高齢者が老いる段階に応じた法律問題が生じる場面をシミュレーションし、成年後見制度の説明と「あいちあんきネット」の活動を紹介しました。

【学生の感想】 私たちの老後の時代がどのようになっているのかが気になり（経済 4 年）／外部との繋がりを持ち続け、孤立しないためにはどうすればいいのか。（人社 1 年）

（野田幸男、のだ・ゆきお）

[書評] 共に生きる場を拓く 小木曾洋司・赤石憲昭編 (現代社会研究会)

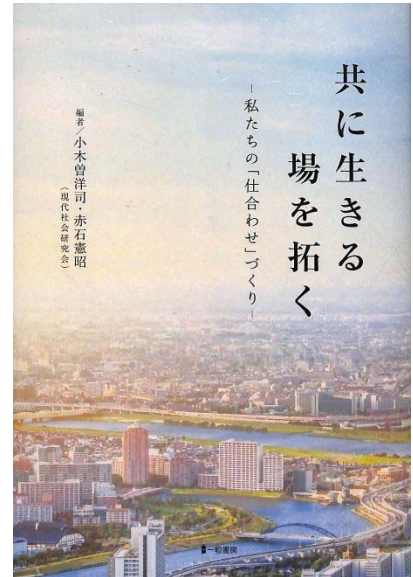
本書はあとがきにもあるように特に若い読者を対象にしていますが、誰でも十分に納得できる内容となっています。「現代社会研究会」の 7 人による執筆です。大きく二部に分けられ、1 部については、私たちの今の社会についての分析であり、2 部では、その状況での、生き方の提案「仕合せづくり」が、現在の政治や仕事への対応を踏まえてのべられています。

第 1 部「自分を生きるための社会を」の 1 章「社会のメンバーとしての私」では、非正規労働や格差、ブラック企業等労働環境の変化のなかで、閉塞していく人間関係を変えるためには、SNS などのつながりだけでなく、それを超えて想像力を働かせ、出会うことで、社会のメンバーとしての自分を発見させることの大切さを指摘しています。2 章「スマホをやりすぎると人間になれない」では、「LINE (らいん)」などでの常時接続型の人間関係では、その依存関係が病的なまでに発展し、それをを変えるにはネット社会に翻弄されない情報リテラシーや、コミュニケーションスキルと教養が必要だと説きます。3 章「未来の教育をいっしょに考えたい」では、自らの競争社会のなかでの、学校や「ブラック企業」での体験をもとに、それを超える「労働学校」の体験や「生活綴り方運動」の再発見などによる対話を基礎にした平等な学びの実践の紹介は、1 章、2 章の問いに対するひとつの回答にもなっているようです。

2 部「“フツの仕合せ”をつくる」4 章「ノーマルに生きる」では、1 章をさらに補強する形で 30 年の変化を分析、フツの生活が破壊されているなかでの、若者の一部にある生き方、それをコンサバトリーと読み替えて、それを福祉国家デンマークの実例と重ねて、紹介しています。5 章「政治に出会う」では、現在のブラックな社会の現実から目をそらさず、それをまともな社会に変えるために、政治参加の重要性とその具体的な道筋が示されます。「政活」という言葉で、主権者としての市民運動への参加を提案しています。6 章で「仕事と向き合う」では、働く意味を見失わせる劣悪な現代日本の労働環境の問題点を明らかにするとともに、それと対置される世界のディーセントワークの潮流や、職場での仲間づくり、ユニオン (労働組合) の重要性が述べられます。7 章「『しあわせ』と人生」では、現在もちいられている「幸せ」という言葉が用いられるようになったのが実は戦後からのことで、それ以前は「仕合せ」と表記されていたことに着目し、個人的な現在の時間を表現する「幸せ」に対し、他者との共同や未来と結びついた「仕合せ」という言葉の意味の再生が、この成熟社会において重要であることが指摘されます。ここで、最初表紙のこぼの表記「仕合せ」の違和感が氷解しました。中島みゆきの歌「糸」が引用され、また堀辰雄の小説「風立ちぬ」での、悲劇でありながら、死別した彼女と生きた時間の記憶とともに主人公が「幸福」に生きていく姿をえがき、「幸福とは何か」を問う作品となっていることを紹介しています。

というわけで、若者だけに読ませるのは、実にもったいない豊かな内容になっています。

評者：地域と協同の研究センター事務局 熊崎辰広 (くまざき・たつひろ)



情報クリップ

NAVI 2019.5 No.806

「より多くの人に商品をお届けする生協が支える暮らし」

日本生活協同組合連合会 2019年5月、A4判、36頁、360円

特集 より多くの人に商品をお届けする生協が支える暮らし

- <コープのある風景>
 - パルシステム神奈川ゆめコープ
- <今日も笑顔のコープさん生協の仲間のお仕事拝見>
 - コープあいづ 平野理香さん
- <想いをかたちにコープ商品>
 - スラウェシ島 エビ養殖漁業改善プロジェクト
- <生協大好きママ コブ山さんの 教えて!CO・OP商品>
 - CO・OPあずきバター
- <ZOOM IN 生協の店舗づくり>
 - みやぎ生協 錦町店
- <あなたの町の組合員活動>
 - 富山県生協

<組合員さんが語る私の生協ライフ>

コープぎふ

- <世界と日本の協同組合>
 - コラバ・セントラル生協 (インド)
- <日本全国 宅配現場におじゃまします!>
 - 第4回全国生協営業コンテスト
- <いつでもどこでも 地域と暮らしを支えます>
 - こうち生協
- <明日の暮らし ささえあう CO・OP共済>
 - コープあおもり るいけ店
- <この人に聴きたい>
 - 映画監督・テレビディレクター 信友直子さん
- <ほっとnavi>
 - コープしが エフコープ



恵那店の周年祭で綿菓子販売しました。

松村さん(『CO-OP navi』2018年7月号でも「おたがいさま東部」の取材に応じていただきました!)



コープぎふ

まつむらみちよ
松村三千代さん

CO-OPnavi24 頁をご紹介します

月刊JA 2019.5 vol.771

全国農業協同組合中央会 2019年5月、A4判、48頁、年間予約5,109円(消費税込)

スゴイ農業、スゴイJA
JA自己改革の現場から
地域みんなの居場所づくりをJA女性部で
—JA高知県女性部大籾支部が展開する
「大籾子ども食堂」 小川理恵
JA・農政トピック
なぜJAがGAPに取り組むのか
—JAグループGAP支援チームの支援事業を通じてJA事業を考える
JA全中営農・暮らし支援部営農担い手支援課
JAグループGAP支援チーム
きずな春秋—協同のこころ—
童門冬二

私のオピニオン
安齋 隆
協同組合とSDGs
第2回SDGsを示した国連の文書「2030アジェンダ」とは?
前田健喜
海外だより [D. C. 通信] 連載 96
アメリカ・EU貿易交渉の行方
—農業を巡り一歩も引かない両者の対立
吉澤龍一郎
JAトップインタビュー
徹底して「出向いて、聴いて、実践」
小田良則 (広島県JA広島北部 代表理事組合長)

展望 JAの進むべき道

平成30年度JA営農指導実践全国大会を終えて
 広岡弘典 (JA全中常務理事)

第32回 広報活動優良JA紹介

総合の部 大賞/JAなんすん (静岡県)

トピック

「食べて応援しよう！ニッポンの畜産・酪農」応援キャンペーンに多数の応募！

JA全中 農産部 畜産・青果対策課

文化連情報 2019.5 No.494 安心して受けられる在宅医療を目指して

日本文化厚生農業協同組合連合会 2019年5月、B5判、88頁、文化連情報編集部 03-3370-2529 *注

農協組合長インタビュー (55)

今こそ農協が農民運動を束ねていくとき

秋山 豊

課題山積の令和元年度情勢と

日本文化厚生連「令和元年度事業計画」の概要

伊藤幸夫

日本文化厚生農業協同組合連合会
 機構改革と主要人事のお知らせ

院長リレーインタビュー (310)

新築を機に機能再編 医師を疲労させない病院運営

三浦雅人

長門総合病院における在宅医療の現状

安心して受けられる在宅医療を目指して

藤井康宏

密着取材！

第10回愛知メディカルラリーに潜入してきました！

関根健太郎

薬機法改正 その方向性 (1)

強引な規制緩和は患者の安全を脅かす

寺岡章雄

先覚者の農業論・協同組合論と現代

新渡戸稲造、柳田国男、賀川豊彦、
 新渡戸稲造の農業・農民論と産業構造問題

北出俊昭

一門さんのことば⑤ 農業とは何か

佐治 実

国連「家族農業の10年」と「小農宣言」の意義 (2)

国連「家族農業の10年」が誕生した経緯と今後の
 展開

関根佳恵

多様な福祉レジームと海外人材 (14)

EPAで就労する人々は日本での暮らしをどう見
 ているか

安里和晃

臨床倫理メデイエーション (33)

臨床倫理の知 (とも)

中西淑美

全国統一献立 静岡 浜松餃子

安本美登里

岡田玲一郎の間歇言 (154)

病院の質によって診療報酬は加算、減算すべきだ

岡田玲一郎

地域で自分らしく暮らす (1) NPO むすびとまちづくり

小磯 明

野の風●着物を楽しむ

西堀由利恵

デンマーク&世界の地域居住 (120)

介護予防と買物支援を一体的に (山口県防府市1)

松岡洋子

熱帯の自然誌 (38) 塩を求めて数カ月の旅

安間繁樹

イギリスの病院 (10)

Victoria Road Health Centre (2) GP

小磯 明

◆第5回厚生連病院臨床研究研修会開催のお知らせ

◆令和元年度厚生連院内感染予防対策研修会開催のお知らせ

◆第15回厚生連医療機器・保守問題対策会議開催のお知らせ

□書籍紹介

ふたつの日本

社会保険の政策原理

▶線路は続く (130)

進化する鉄道つくばエクスプレス/西出健史

▶最近みた映画

ブラック・クラズマン/菅原育子

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(♣)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

【研究センター5月活動】

7日(火) NEWS 編集委員会, 三重地域懇談会

9日(木) 名市大寄付講義④

15日(水) 愛知の協同組合間協同相談会

16日(木) 名市大寄付講義⑤

17日(金) 三河地域懇談会世話人会

20日(月) 常任理事会②

25日(土) 第18回通常総会, 総会記念シンポジウム

28日(火) 名東区ささえあい組織交流会準備会

29日(水) 第5期「協同の未来塾」企画委員会

30日(木) 名市大寄付講義⑦ アジアの平和、食と文化フ

ェア拡大実行委員会

31日(金) 研究フォーラム「食と農」世話人会

【愛知県立大学地域連携事業】

地域と協同の研究センター・愛知県立大学地域連携センター・多文化共生研究所 共済企画

連続セミナー「多文化共生を巡る地域連携と社会課題への取り組み」

研究センターも共催する企画。

神田すみれ氏（研究センター研究員）からのご紹介

第1回「地域生活から見えてくる外国人住民と取り巻く社会的課題」

■日時 2019年8月31日 13:30～16:30

■場所 愛知県立大学 サテライトキャンパス ウィンクあいち15階

<http://www.bur.aichi-pu.ac.jp/renkei/>

<神田さんより（2019年5月10日現在）>

第1回で、報告をお願いしている 愛知県高齢者生活協同組合「ケアセンターほみ」へ打ち合わせに行ってきました。

- ・ブラジル人、ペルー人、日本人が共に働くケアセンターと助け合い活動。
- ・外国人高齢者が制度申請手続き、介護サービスを利用する際の言葉の壁や文化の壁。
- ・保護者のニーズに応える形で始まった児童デイ。

当日は、事例を交えて取り組みをご報告いただきます。

※随時、準備状況をお知らせします。

地域と協同の研究センター 6月の予定

| | |
|------------------------------------|------------------------|
| 4日(火)NEWS編集委員会, 研究フォーラム地域福祉世話人会 | 20日(木) 名市大寄付講義⑩ |
| 6日(木)名市大寄付講義⑧ | 21日(金) 協同の未来塾① |
| 12日(水)尾張地域懇談会世話人会 | 25日(火) 研究フォーラム「環境」世話人会 |
| 13日(木)名市大寄付講義⑨ | 27日(木) 名市大寄付講義⑪ |
| 14日(金)市民講座運営委員会, 暮らしを語り合う会 | 30日(日) 協同組合学会「新理論研究会」※ |

※ 6月30日（日）協同組合学会「新理論研究会」の詳細は挿入チラシをご覧ください